

平成 28 年度事業報告書

社会福祉法人 エンゼル福祉会

越谷なごみの郷・おたけの郷

1 職員育成

(1)内部研修

①新規卒業者職員 3 法人合同研修（宿泊研修）

平成 28 年度は越谷なごみの郷で初めて障害者雇用職員を新卒者として採用し、3 法人合計 9 名中、越谷なごみの郷 4 名（専門校 1 名、専門高校 1 名、中学校 1 名、特別支援学校 1 名）。おたけの郷 1 名（愛知県・専門学校卒）

例年通り入社式は（株）大起エンゼルヘルプ三河島研修室で行い、翌日から 2 泊 3 日の宿泊研修を通し、まずは、心を学生気分から社会人へとギアチェンジし、職業人として「当たり前前のことが当たり前出来る」姿勢を身につけることを目的に実施。そのうえで専門職として目的意識に目覚めた状態でスキル・知識を習得することができるようになり、自ら気づき、自ら進んで学ぶ事ができる姿勢を身につけられることで、法人の職員としてのスタートラインに立てる新入社員へと成長する機会として実施した。今年度は 10 月に 1 泊 2 日の宿泊研修を実施。半年間の振り返りや行動計画書の進捗状況確認を実施する。

②外部講師による研修

- ・嚥下機能評価員の研修を実施。摂食嚥下のメカニズム、病態の特徴、検査・訓練方法、支援のコツを学び、人が生きる事を支える食支援のプロを養成する研修。目の前の入居者に対して適切な食支援を実践していくための取り組み。1 年を通じて学び、看護師、フロア責任者、管理栄養士、施設介護支援専門員等が受講した。
- ・越谷なごみの郷では、外部より講師を依頼し専門性を追求する研修として理学療法士を講師として迎え、介護職の支援方法で拘縮を改善できるコツを知ることができた。また、腰痛予防は会社側だけが取り組むことではなく、職業人として自分自身で行うストレッチは、日々のメンテナンスあり、専門職として働く以上、当たり前のことであると教えられた研修であった。

③内部選択研修（越谷なごみの郷）

今年度は、事故対策委員会で事故を減らすための企画案とし、自分自身で学ぶ姿勢を自ら選択して受講する研修を 1 年間に渡り計画したが、参加者が少なくまだまだ、自ら学びたいという姿勢には程遠い職員が多く、結果、目的を達成できなかった。また、絶対必要だと思われる研修は、受講義務を明確にするべきであったと反省点が上がった。

④意識改革研修（越谷なごみの郷）

5 月の末に職員の報告で発覚した「虐待」事件を踏まえ、もう一度、自分たちの介護職としての支援の在り方を考え、事故分析も含め全職員で自らの姿勢を考える研修となった。その時だけの研修で終わらせないために、研修後、各部署でグレーゾーンと云われる事例を現状確認を含め検証しながら取り組んだ 1 年であるが、風化させないためにも今年度の虐待防止委員会と連動していくことが重要である。

⑤人権擁護&職業倫理研修（越谷なごみの郷）

27年度に作成し直した「職業倫理」は、各フロア会議やプロセス会議にて唱和されていたが、改めて内容を噛み砕き、越谷なごみの郷が求める職員像を明確にした研修となった。また、「介護支援専門員の職業倫理」を新たに作成し、施設ケアマネ・居宅ケアマネ・地域包括職員で勉強することができ、同じ法人の同じ職種だけの専門職が意見交換をする場が設けられたことは、効果的な研修になった。

⑥委員会や施設長、責任者等の主催による内部の研修（勉強会）

実施月	越谷なごみの郷	おたけの郷
4月	新卒宿泊研修（ギアチェンジ） 社会福祉法人合同新卒研修 エンゼル福祉会新卒研修	
5月	拘縮予防研修（外部講師）	身体拘束廃止・虐待防止研修
6月	意識改革研修 緊急時対応研修（誤嚥）	食中毒・感染症対策研修 認知症研修
7月	係長研修 中途採用研修 腰痛予防研修（外部講師）	事故防止研修 認知症研修
8月	緊急時対応研修（心肺蘇生） 看取りケア研修	褥瘡対策研修 認知症研修
9月	認知症研修 介護支援専門員倫理&基礎姿勢 緊急時対応研修（災害時）	看取り研修
10月	人権擁護&職業倫理研修	食中毒・感染症対策研修
11月	中途採用研修 リ・アセスメント研修（法人合同居宅）	身体拘束廃止・虐待防止研修
12月	係長研修	
1月	医療との連携（法人合同居宅）	褥瘡対策研修 認知症研修
2月	腰痛予防研修	看取り研修 認知症研修
3月	看取りケア研修 中途採用研修	事故防止研修

(2) 外部研修（越谷なごみの郷）

実施月	外部研修	参加者
4月	埼玉県認定調査員研修	介護支援専門員(施設・居宅)
6月	3年目研修	入職3年目職員8名
6月	認知症の薬について	施設ケアマネ
7月	病態栄養講習会	管理栄養士
8月	プレゼンテーション研修	係長
9月	腰痛予防研修	介護職
9月	スーパービジョン基礎研修	係長
9月	リ・アセスメント研修	介護支援専門員
10月	新たな指定難病筋ジストロフィー	介護支援専門員
11月	介護支援専門員合同研修	介護支援専門員
1月	形態食の3カ条（対象者に合った食事）	管理栄養士

2 人材雇用

(1) 職員採用状況

①越谷なごみの郷

求人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP		1	1									1	3
紹介											1		1
ネット	1			1									2
紙面媒体		1		1									2
養成校	1								1				2
その他	3			1						1		1	6
合計	5	2	1	3	0	0	0	0	1	1	1	2	16

入職	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設	4	1	1	1					1	1	1	1	11
通所		1		1									2
訪問													
居宅													
総務	1			1								1	3
合計	5	2	1	3	0	0	0	0	1	1	1	2	16

退職	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設		1	2	1	1	3				1		3	12
通所					1							2	3
訪問						1						1	2
居宅										1			1
総務	1	1											2
合計	1	2	2	1	2	4	0	0	0	2	0	6	20

②おたけの郷

求人活動について、介護に特化したインターネット求人媒体で約 200 万円、多職種対応のインターネット求人媒体で約 100 万円の求人費となっている。

無料での求人活動は、ハローワーク求人への掲載と就職説明会への出席である。

全体の応募者数（全職種）75 名、採用者は 19 名となり採用率 25%。

採用内訳は、インターネット 11 名、ハローワーク 6 名、グループ法人より転籍 2 名となっている。

(2) 事業所別職員数 (29年5月1日現在)

	越谷なごみの郷	おたけの郷
特養施設長	1	1
特養介護職員短期含	44 (従来型) 20 (地密着型)	67
通所介護職	14 (従来) 5 (認知症)	
訪問介護職員	11	
看護職	7	3
介護支援専門員 (特養生活相談員兼務)	4	3
生活相談員 (SS)	1	1
管理栄養士	2	2
理学療法士	1	1
介護支援専門員 (在宅)	6	3
地域包括支援センター	5	
事務職・当直・管理・運転	8	8
障害者雇用	3	2
計	132	91

(3) 新規卒業者

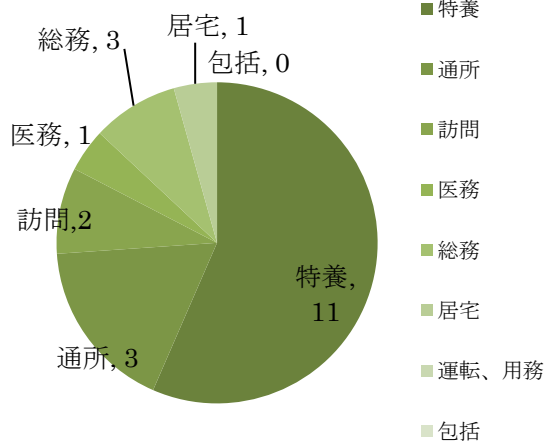
平成28年4月、越谷なごみの郷で福祉専門学校卒1名、高校卒1名、中学校卒1名、特別支援学校卒1名、計4名、おたけの郷で高校卒1名の新規卒業者の採用となる。専門校出身者（介護福祉士）は、体調不良が続き、休みがちであったが、責任者の関わりや本人の努力もあって、下半期には体調不良も無くなり1年間勤務する事が出来ている。高校出身者（初任者研修）は、家族間の問題から勤務に影響をきたしていたが、面談を繰り返した結果現在は通常勤務が出来ている。中学校出身者は、中学時代に不登校となり担任教諭の推薦と親の面談も含め採用としたが、1ヶ月で退職となる。また、今年初めて採用した特別支援学校卒の職員は、黙々と教えられた仕事をこなし、他職員とも元気に挨拶を交わすようになっている。

(4) 離職率

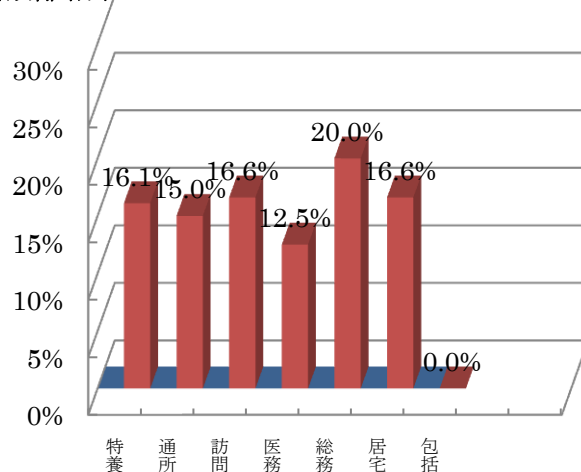
①越谷なごみの郷

・全体の離職率 13.9% 介護職員の離職率 14.91%

離職者数



部署別離職率

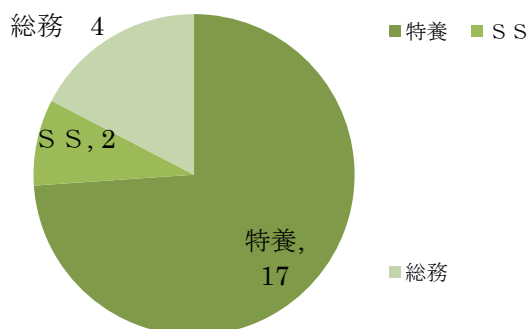


退職理由	特養	医務	ユニット	通所	訪問	居宅	総務	計
人間関係	2			1			1	4
モチベーション	1		1					2
新しい分野へ転職	2		1	1				5
体調不良	1		2					3
独立					1	1		2
結婚・妊娠								
育児								
家族介護		1			1			2
定年・高齢								
その他			1	1			1	3
計	6	1	5	3	2	1	2	20

②おたけの郷

・全体の離職率 20.0% 介護職員の離職率 18.2%

離職者数



退職理由	特養	短期	総務	計
転職	10	1		11
体調不良	2	1		3
結婚	1			1
家族介護	1			1
経済的	1			1
その他	2		4	6
計	17	2	4	23

3 事業別目標評価

(1) 特別養護老人ホーム・地域密着型介護老人福祉施設

①越谷なごみの郷 (従来型 84床・地域密着型 29床)

目標稼働率 94% 実績 90.1%

・肺炎予防による稼働率の向上

27年度に、稼働を下げる大きな要因として「肺炎による入院」だったことから、介護支援の基本を見直し取り組んだ結果、肺炎による入院日数を1000日未満とする事が出来たにも関わらず、28年度は、肺炎による入院から、永眠に繋がるケースが多かった事は否めない。また、バルン留置者の入居が増え、バルントラブルや尿路感染等の泌尿器科の入院が多かった。医療行為として施設でできることも協力病院の意向で施設では、ほとんど対応できず全て受診で行わなければならないため、受診に関わる人員と時間が増大した1年となった。また、入院中の退所も例年になく多かったことが上げられる。ほぼ毎月数名の退所者がでていたが、新規入所者の実態調査や健康診断が間に合わず、空床の日が多く、目標値としていた年間平均稼働率94%は、結果的に90.1%となり、安定した稼働率は達成できなかった。

“施設でも看取る事ができる”においては、28年度は従来型特養で4名、地域密着型で1名と全部で5名の看取りケアを行った。この看取りケアに取り組む上では、生活相談員の援助技術も重要であり、医者との連携等にはまだまだ向上が求められる。

その他、1つのベッドを2人～3人の在宅要介護者でシェアし、一定期間（1～3ヵ月程度）の特養利用で在宅生活継続に必要な課題解決を図る、ベッドシェアリング制度を実施するという目標に対しては、全く取り組めていない。要介護1・2の方の在宅復帰に活用できないかと検討中である。

以下の加算状況は、目標達成しているが退職に伴い、介護福祉士の比率で難しい場面もあった為、今後は介護福祉士の採用を増やすとともに、取得を促していく。

（従来型特別養護老人ホーム） *100%稼働時

看護体制加算Ⅱ 日/8単位 → 252万/年

経口維持加算 月/400単位×36人 → 177万/年

日常生活継続支援加算Ⅰ 日/36単位 → 1,133万/年

（地域密着型特別養護老人ホーム）

看護体制加算Ⅰ 日/4単位 → 120万/年

日常生活継続支援加算Ⅱ 日/46単位 → 500万/年

経口維持加算 月/400単位×7人 → 35万/年

越谷なごみの郷	26年度	27年度	28年度
入院者数	119人	82人	79人
肺炎での入院者数	50人	25人	29人
入院総日数	4352日	2820日	2945日
肺炎での入院日数	2087日	939日	1462日
肺炎の割合	47.9%	33.2%	49.6%

平均年齢	平均介護度	男性 (平均年齢)	女性 (平均年齢)	最高齢	最年少
83	3.38	79.15	83.4	104	54

②おたけの郷（140床）

- ・稼働率 目標 95.0% 実績 94.2%（前年度 96.1%）

10月までは目標値を上回っていたが、11月から2月にかけてインフルエンザ等の感染症が施設内で流行し入院者が増加し、結果的に目標は未達成となった。

看取り介護に対する援助技術は向上しており、今年度は4名の方を看取る事となった。

- ・事故撲滅委員会において、平成28年度薬に関する事故件数を減少させる事を目標に活動をすすめてきた。主な活動内容として意識の改革・事例検討・取扱マニュアル作成等を実施するが大きな効果を見出すことが出来なかった。平成29年度も改めて薬に関する事故撲滅を課題に掲げて取り組みをすすめていく。

おたけの郷	26年度	27年度	28年度
入院者数	105	400	807
入院総日数	1,237日	1,344日	1,848日

平均年齢	平均介護度	男性 (平均年齢)	女性 (平均年齢)	最高齢	最年少
85.4	3・5	81.4	86.8	101	57

③平成28年度特別養護老人ホーム入所判定会議及び入退所状況

● 越谷なごみの郷

- ・日程及び出席者

日 程 毎月第2木曜

出席者 第三者委員 施設長 介護支援専門員兼生活相談員 看護師 介護職

- ・特別養護老人ホーム待機者状況（4/1現在）

	要介護5	要介護4	要介護3
従来型	25	45	67
地域密着型	9	5	10

- ・入所、退所の状況

従来特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退所	0	4	1	1	3	2	4	3	1	3	0	2	24
入所	1	1	2	2	2	1	3	3	3	4	1	2	25

地域密着型介護老人福祉施設

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退所	0	0	2	1	0	0	0	1	0	2	1	1	8
入所	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	1	2	8

● おたけの郷

・申込者数・・・平成29年4月現在 414名

入居判定委員会は毎月末（開催日は都度決定）に開催。入院・看取り状況の確認、待機者への意向確認や入居面接状況の把握をしている。

出席者は、施設長・施設介護支援専門員

平成28年度の新規入居者は、24名、退居者は27名。

退居者内訳は、看取り4名・他医療施設6名・医療機関永眠17名。

	要介護5	要介護4	要介護3
従来型	76	122	142

(3) 短期入所生活介護

①越谷なごみの郷

(従来型SS)

・稼働率 目標値155% 実績123.7%
 ・登録者数 未設定 実績159名

(ユニット型SS)

・稼働率 目標値105% 実績97.0%
 ・登録者数 未設定 実績80名（未利用者2名）

平成28年度において、稼働率目標を達成したのはユニット型の12月、1月、2月のみとなっている。年末年始ということと、体調を崩され入院し自宅復帰が困難となられた方が老人保健施設や有料ホームへの入所待ちとして長期で利用されたためとなっている。

新規利用者は従来・ユニット型共に毎月2～4名程度の申し込みを頂いているが、単発的な利用にとどまっている。

事業者周りなど新規利用者獲得のための手立てを取ったものの、際立った成果が見られないことから、利用時の活動やなごみのショートステイを利用していただくメリットが他者と比較しても薄いと判断されているのではないかと推測する。

平成20年度以降、150%以上の稼働率を獲得してきたが、平成26年度頃より120～140%の稼働率となり、平成28年度には年平均123%と下降した。高い稼働率を獲得出来ていた頃と比較し、近隣に他事業所が増えるなど外部的な要素もあるが、内部的には、サービスの質の低下や事故・クレーム、当たり前の事が当たり前に行われず、利用される方に対する良い影響を与えられていない事が稼働率低下の要因と捉えており、平成20年度と変わらないことは、「困った時のなごみ」という声が多少なりとも外部より聞こえてきていること。こういった機会を活かし、顧客が期待する成果を上回る結果を事業所が演出すること

により、利用の拡大といった結果に結び付ける必要がある。

地道で一貫した取り組みや努力が年度末には結果として表れるよう、平成29年度は効果的な策を考案・実施していく。

②おたけの郷

・稼働率 目標 99.0% 実績 90.7% (前年度 90.1%)

・地域別のべ利用者数

荒川区・・・4,224名(前年度3,941名)

台東区・・・1,608名(前年度2,160名)

北区・・・626名(前年度401名)

足立区・・・0名(前年度0名)

その他・・・179名(前年度113名)

以前から課題であった新規依頼の迅速対応や相談窓口365日稼働実施に向けて相談員を2名体制で年度当初は臨んだ。その効果があり8月には稼働率が開設以来初めて100%を超える事ができた。しかし、相談員1名が退職した後には稼働が下降し平成29年3月には稼働率が78%になった。

平成29年度は、改めて相談員2名体制するために職員募集を続け、また並行して外部居宅介護支援事業所への営業活動も実施する。

(4) 通所介護

①従来型通所介護 (定員50名)

・登録者数 目標 130名 実績 118名

・年間平均利用者数 目標 38.8名/日 実績 37.6名

・新規利用者数 目標 45名/年 実績 40名

登録者数、平均利用者数は目標値に届かなかった。昨年度年間の新規利用者数と比較すると7名少なく、契約解除者に関しては28名とほぼ同数となっている。平成28年度は、通所介護事業所の役割を果たすことに注力し1人1人に合った機能訓練が提供できるよう午前中の集団体操の内容を変更して少人数での運動機会を設けることを実施。午後の趣味活動についても利用者が選択できるよう多数の活動内容を提供した。

今年度新たな加算として認知症ケア加算と個別機能訓練加算を算定している。認知症ケア加算は年度開始の4月、個別機能訓練加算においては12月からの算定開始としている。

②認知症対応型通所介護 (定員12名)

・登録者数 目標 25名 実績 18名

・年間平均利用者数 目標 8.5名 実績 6.7名

・新規利用者数 目標 10名 実績 7名

登録者数、平均利用者数は目標値に届かなかった。H27年度年間の新規利用者数と比較すると1名増加、契約解除者に関しては4名減少している結果となった。

平成28年度は、自宅で介護を行う家族の抱える課題について抽出することを行い、抽出した課題の中から解決出来るよう提案を行った。オムツ交換に課題を感じていたご家族には実際にご自宅に訪問しオムツ交換の実践をし、ご家族へレクチャーする機会を設ける事が行えた。引き続きご自宅での課題について自分たちが解決出来る課題については提案を行っていく。また、利用者の周辺症状に関して改善が出来る支援を行うことに取り組み成果の出た支援が報告された。

加算の取得状況としては、栄養改善加算を開始していたが管理栄養士の配置の関係により12月で一時算定を終了としている。

(5) 訪問介護事業所

・登録者数 介護保険要介護	目標	60名	実績	42名
予防	目標	27名	実績	16名
障害（総合支援）・移動支援	目標	18名	実績	19名
・車両事故	目標	0件	実績	1件
・物損事故	目標	0件	実績	0件

平成28年度は、サービス提供責任者4名→3名に体制を変更してスタートした。新しいサービス提供責任者が加わったこと、法人合併移行に伴い書式変更等を行ったことで、前期は毎月1回サービス提供責任者業務の進捗確認を実施し円滑に業務を遂行した。訪問介護職員は在籍年数も長く、利用者宅からのクレーム等はなかったが、職員の退職や体調不良者が増加傾向にある。要因としては年齢に伴う体調不良が多いと感じているが、中には障害（総合支援）利用者に対して上手く対応出来ずに悩む姿もあった。

職員数の推移としては今年度4月の常勤換算数10.98から3月末現在で8.25と減少した。継続して職員募集は実施しているが、訪問介護職員での応募は限定的で少ないのが現状である為、法人内他部署の介護職員へ協力を仰ぎながら、引き続き職員募集は実施していく。

新規利用者においては 中重度の利用者を多く支援する体制を整えたが、入院・施設入所永眠等でサービス開始してからの利用期間が短く、目標は達成できていない。（障害（総合支援）の目標は達成）

車両事故が1件発生。入職後車両事故を起こした事がない職員ではあったが、今後は車両を使用する職員に運転技術のチェックを実施していく。

平成29年度においては「特定事業所加算1」を継続していく事から新規利用者、特に中重度の利用者に選択される事業所とならなければならない。そのためにもまず、外部居宅支援事業所へ空き情報の提供と訪問介護事業所越谷なごみの郷の優れた点をアナウンスしていく。

また平成29年度4月から施行される「医療と介護連携の会」メディカルケアステーション(MCS)が運用される事となり、医師・薬剤師・訪問看護・居宅介護支援事業所・サービス事業所等在宅で生活される方の支援に対して情報共有のツールで携帯端末（スマートフォン）を使用して行うが、職員に対して勉強会を実施しスムーズに使用していけるよう備える。研修においては上記で悩んでいる職員の負担軽減と援助技術の向上のため、障害（総合支援）の支援について年間の研

修計画に組み込み連続性を持たせてステップアップしていける研修として実施する。

(5) 居宅介護支援事業所

①越谷なごみの郷

平成 28 年度は、以下 5 点に注力し事業所全員で共有し取組みを行ってきたが、組織の一員として課題が残る結果となっている。そこには、目標設定をする上で現状のケアマネスキル向上を目的として決めたものであったが、日々、利用者のケースに終始したように思う。

- ・介護予防の利用者の「介護保険卒業」に向け、リハビリ協会・各事業所と連携し、成果を出す。
- ・「何がどうなれば在宅生活が継続出来るのか」の在宅生活の限界点を高めるためのアセスメントが根付き、そのアセスメントに基づくサービス計画の立案が当たり前のようになる。
- ・各自が持ち件数を意識し、自ら調整できるようになる。
- ・それぞれがコミュニケーション力を付けるための努力をすることで自己覚知に努め、地域の相談役として地域に根差す取組みが自らできるようになる。また、地域ケア会議など必要とする地域資源の提案や仕組み作りができるようになる。
- ・主任ケアマネジャー・社会福祉士等資格取得や自身の将来像に向け意欲的に取り組める職員が育成され、介護職員へ勉強会や指導など率先して活動出来る職員が増える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
給付管理	275	279	280	270	270	260	257	265	262	256	247	238
一人件数	30.6	31.0	31.1	33.8	33.8	32.5	32.1	33.1	32.8	32.0	35.3	29.8
予防プラン	39	34	31	24	24	25	24	26	23	21	20	18
認定調査	77	74	104	67	73	82	64	65	72	60	64	47
地域支援事	4	7	8	8	10	9	9	9	8	7	9	11

年度当初 9 名でスタートしたが、7 月には施設への異動があり 1 名が抜け、1 月には 1 名退職したことで、引き継ぎの業務が増大し思うように新規も増やすことができなかつた。平成 29 年度も 4 月に主任ケアマネの退職があり、男性 3 人、女性 3 人の計 6 人での活動となるが、達成に向け、仕切り直しをする。

②おたけの郷

職員体制は、常勤 3 名（内 1 名時間短縮勤務）。職員を増員しようと年間を通じて募集をするが増員できなかった。

現在までは目標設定が明確に出来ていない現状がある。個年度からは法人合併を良い機会と捉え、法人内居宅介護支援事業所間での連携をとり、目標設定を明確にし事業運営していく。

- ・給付数（介護）・・・月平均 26 件/人
- ・給付数（予防）・・・月平均 9 件/人
- ・認定調査数・・・月平均 4 件/人

4 平成 28 年度決算状況

(1) 平成 28 年度決算状況

①越谷なごみの郷

平成 28 年度の事業収入は 828,449,950 円（収支計算書ベース）となり、前年度比－7,752,036 円。要因としては事業別目標評価でも述べたが、特養の入院日数の影響と在宅分野における稼働の減少が挙げられる。

・平成 28 年度

収入・・・・・・・・・・828,449,950 円

人件費・・・・・・・・・・557,106,104 円

人件費率・・・・・・・・67.2%

・年度別

平成 26 年度 収入：808,969,691 円／人件費：518,346,868／人件費率：64.0%

平成 27 年度 収入：836,201,986 円／人件費：565,734,288／人件費率：67.6%

②おたけの郷

平成 28 年度の事業収入は、722,507,486 円（収支計算書ベース）となり、前年度比＋678,952 円。予算に対しては未達成となっており、短期入所の新規獲得が計画通りに推移しなかったのが要因と捉えている。

・平成 28 年度

収入・・・・・・・・・・722,618,426 円

人件費・・・・・・・・・・435,736,213 円

人件費率・・・・・・・・60.3%

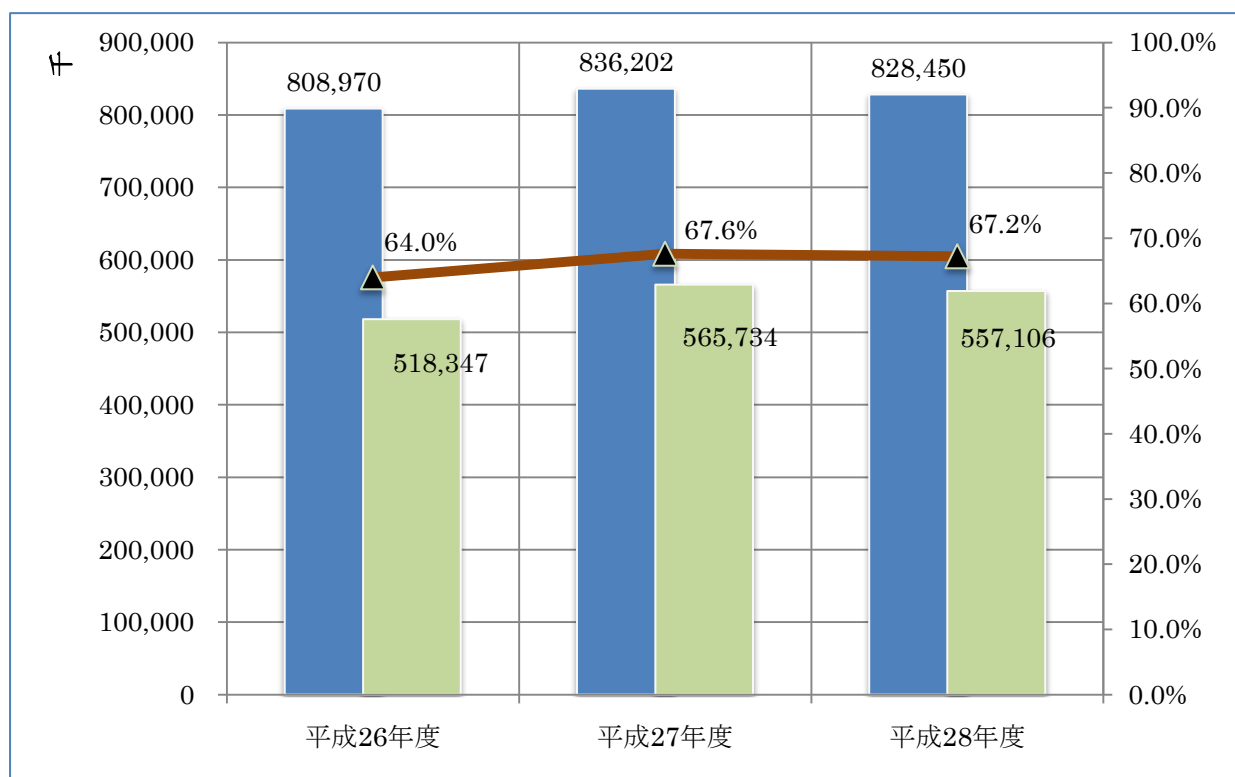
・年度別

平成 26 年度 収入 691,036,935 円・人件費 396,407,501 円・人件費率 57.3%

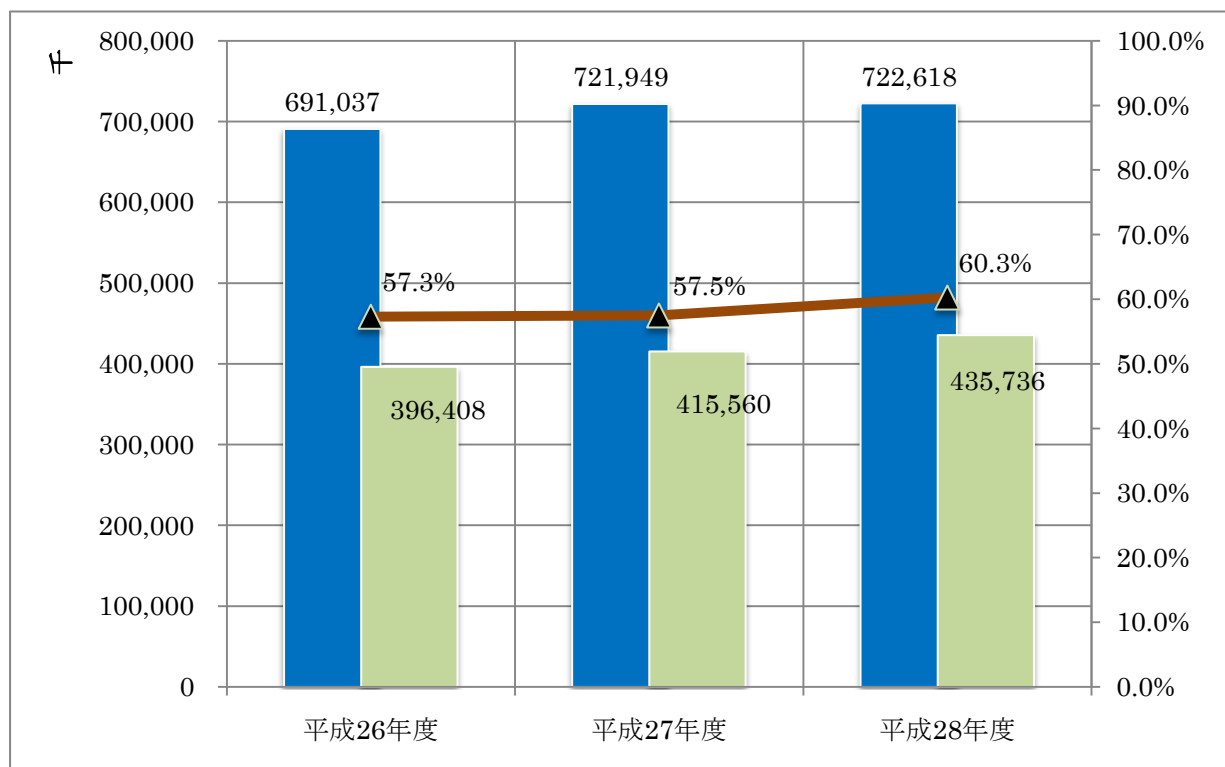
平成 27 年度 収入 721,949,474 円・人件費 415,560,413 円・人件費率 57.5%

(2) 収入、人件費推移

①越谷なごみの郷



②おたけの郷



5 平成 28 年度評議員会及び役員会

(1) 評議員会

第 1 回 平成 28 年 5 月 24 日 13 : 30 ~

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告について

第 2 号議案 平成 27 年度決算報告について
監事による監査報告

第 3 号議案 平成 27 年度資金運用実績報告について

第 2 回 平成 28 年 8 月 23 日 15 : 30 ~

第 1 号議案 2 法人合併に伴う定款変更について
報告事項

- ・合併申請書について
- ・越谷なごみの郷 越谷市実地検査結果報告
- ・おたけの郷 東京都実地検査結果報告

第 3 回

平成 28 年 10 月 25 日 13 : 30 ~

第 1 号議案 社会福祉法改正に伴う定款変更について

第 2 号議案 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について

第 3 号議案 越谷なごみの郷 施設長交代について

第 4 号議案 洗面・トイレ設備改修工事契約方法・業者選定について
報告事項

- ・法改正に基づく今後のスケジュールについて

第 4 回

平成 28 年 12 月 17 日 9 : 30 ~

第 1 号議案 社会福祉法改正に基づく定款変更の修正について
(租税特別措置法第 40 条の特例を受けるか否かについて)

第 2 号議案 平成 28 年度 第 1 次補正予算 (案) の承認について

第 3 号議案 食事提供業務委託業者入札方法及び業者選定承認について
(越谷なごみの郷)

第 5 回

平成 29 年 3 月 21 日 13 : 30 ~

第 1 号議案 平成 28 年度第 2 回補正予算について

第 2 号議案 平成 29 年度事業計画について

第 3 号議案 平成 29 年度予算について

第 4 号議案 平成 29 年度資金運用計画について

第 5 号議案 施設長の任免および法人組織図について

第 6 号議案 平成 29 年度役員報酬額について

第 7 号議案 平成 29 年度顧問給与額について

- 第 8 号議案 役員選任及び任期について
第 9 号議案 法改正及び合併に伴う各種規程変更について
報告事項
・契約の更新について

(2) 役員会

第 1 回 平成 28 年 5 月 24 日 15 : 00～

- 第 1 号議案 平成 27 年度事業報告について
第 2 号議案 平成 27 年度決算報告について
監事による監査報告
第 3 号議案 平成 27 年度資金運用実績報告について

第 2 回

平成 28 年 8 月 23 日 14 : 30～

- 第 1 号議案 2 法人合併に伴う定款変更について
報告事項
・合併申請書について
・越谷なごみの郷 越谷市実地検査結果報告
・おたけの郷 東京都実地検査結果報告

第 3 回

平成 28 年 10 月 25 日 14 : 30～

- 第 1 号議案 社会福祉法改正に伴う定款変更について
第 2 号議案 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
第 3 号議案 評議員選任・解任委員会委員候補者 案について
第 4 号議案 次期評議員候補者 案について
第 5 号議案 越谷なごみの郷 施設長交代について
第 6 号議案 洗面・トイレ設備改修工事契約方法・業者選定について
報告事項
・法改正に基づく今後のスケジュールについて

第 4 回

平成 28 年 12 月 17 日 10 : 30～

- 第 1 号議案 社会福祉法改正に基づく定款変更の修正について
(租税特別措置法第 40 条の特例を受けるか否かについて)
第 2 号議案 平成 28 年度 第 1 次補正予算 (案) の承認について
第 3 号議案 食事提供業務委託業者入札方法及び業者選定承認について
(越谷なごみの郷)

第 5 回

平成 29 年 3 月 21 日 15 : 00～

- 第 1 号議案 平成 28 年度第 2 回補正予算について

- 第2号議案 平成29年度事業計画について
- 第3号議案 平成29年度予算について
- 第4号議案 平成29年度資金運用計画について
- 第5号議案 施設長の任免および法人組織図について
- 第6号議案 平成29年度役員報酬額について
- 第7号議案 平成29年度顧問給与額について
- 第8号議案 役員選任及び任期について
- 第9号議案 法改正及び合併に伴う各種規程変更について

報告事項

- ・契約の更新について

(3) 監事監査

平成28年5月19日10:00~12:00